

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」をモットーに利用者1人ひとりに合わせたケアに取り組んでいる。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>話し合いの場を設け、理念は常に目の届く場所に掲示してあり働くスタッフ全員で共有する事ができ、日々のケアに生かす様取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族にはパンフレット等で伝えており、地域では町内会長が運営推進会議に参加していただきたり、町内会の役員会にも参加させてもらったり、少しずつではあるがグループホームという所を理解していただけてきていると思われる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常の挨拶のほか、近所の方から話しかけてくださったりしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の役員会に参加し、グループホームについて理解していただけるよう努め、町内会の行事などに参加したり、運営推進会議にも参加していただいている。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>母体施設主催による行事のお知らせの他、認知症に関する情報などを掲示板に掲示し発信している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職場全体で自己評価し、改善点を明確にし、対策や質の向上に向けての取り組みを行うように努めている。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に一度行われている運営推進会議で、ご家族や町内会長、地域包括支援センターの方々に参加していただけており、そこで施設内の取り組みや様子、行事等の報告を行い意見交換をし、スタッフも情報を共有しながらサービスの質の向上に努めている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>管理者連絡会議に参加したり、市から連絡のある研修会にも参加している。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在 利用されている方はいないが、ご家族より相談を受けることがあり管理者を中心に対応している。</p>		<p>制度利用の判断や見極めは難しいと思うが、今後も研修等に参加し継続的に勉強していく必要があると思う。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止について学び、勉強会を開催し予防に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>管理者が行っているが、契約前にも口頭や文書で説明を行い、更に契約時には密に説明を行い、理解、納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	個別に関わる時間を持ち利用者が意見や不満等を汲み取る環境や関係を作っている。カンファレンスで話し合いご家族にも様子を伝えている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時には近況報告し、事故や突発的な事柄が起きた時には電話で連絡をしている。また、年5回、すぎの子だよりを発行しており、近況やホームでの写真を交え暮らしぶりがわかる様にしている。金銭管理については、お小遣い帳にて行い、いつでもチェックできるようにしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の会話の中で意見や要望を汲み取ったり、運営推進会議の中でも意見や要望を聞くことができている。また、苦情の窓口は契約書にも記載されている。フロアと玄関に意見箱を設置している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンスは勿論だが、気づいた時に随時意見を出し合っているほか、リーダー会議や運営会議を行い、反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	受診や行事等に合わせ柔軟に勤務調整を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	人員の調整や異動は利用者へのダメージを防ぐためにも最小限に行っている。が、異動したスタッフが居ることにより、他のユニットに行ってもなじみのスタッフが居るといふ利点もある。また、ご家族にはすぎの子だよりにて知らせている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホーム内での月1回の勉強会や法人内外の勉強会や研修会に参加出来る様に、研修案内も掲示している。参加者は報告会を行ったり、報告書を提出したりと勉強会や研修会に参加できなかったスタッフも学ぶことができています。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内のグループホームで交流する機会を作り、研修会を行ってサービスの質の向上に努めている。		東区のグループホームの事例検討会があるが、まだ1度しか参加できていないため、今後も参加し他のグループホームとの交流を行っていきサービスの質の向上に努めていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	親睦会等を行い、ストレス軽減できる様に配慮している。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	法人内で人事考課制度を取り入れており、面談の中で個別目標を設定し、向上心を持ち働けるようにしている。研修や実習の案内を掲示し、希望を取っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	基本情報からのアセスメントや面接を実施し、本人の状況を把握しながら、不安や意向を確認し、受け止めるよう努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	主に管理者が窓口となり、家族が抱えている問題について確認し、ホームでの支援内容を説明し、理解・協力につなげる様に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居者の身体状況を見極め、歯科や皮膚科、内科、精神科、眼科など必要に応じ往診や受診をするように対応している。ベットや車椅子の必要性についても、本人・家族を含め検討し、対応に努めている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>これまでの生活の様子を本人、家族に尋ねたり、以前利用していたことのある事業所があれば、情報交換をしたり、訪問したりと工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>一緒に活動しながら日々の生活を送り、日常の会話を多く持つようにしながら、本人が今何を望んでいるか、何に困っているか等、時間を共有する事で見つけられ支えあう関係を築いている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時や行事、運営推進会議等で来訪された時には、ホームでの様子を随時伝え、情報共有し、困っていること等はないか確認し、家族とホームで本人を支えていける関係となっている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>家族関係をできる限り把握し、ホームに面会に来ていただいた際には、本人の状況を伝え情報を共有しよりよい関係が築けるように支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族や知人等は気軽に訪問していただいている。住み慣れた自宅や親戚の家への外出や外泊は家族の協力のもと行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を見極め、トラブルにならないよう、孤立しないよう、スタッフの介入が必要な時には介入し、関わり合い支え合えるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	相談、情報提供や交換を行いできる限り支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの情報も得て、センター方式のアセスメントツールを使用しながら、スタッフ全員でその人らしさを見極められるようにしている。日常会話の中から希望や意向の把握に努め、常に本人本位であるよう心掛けている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前後の様子を本人、家族、今まで利用していたサービス事業所等からも聞き取りや用紙に記入してもらい、生活歴や馴染みの暮らし方等を把握するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	スタッフ1人ひとりが本人の心身状況を見極め、カンファレンス等の中で情報を共有しながら現状を把握し支えられるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスや毎日の申し送り等で本人や家族の意向を確認し、本人の心身状態の変化を見逃さないようにし、情報を共有し日常会話や行動の中から本人本位の計画となるように作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のカンファレンスでケアプランの評価(モニタリング)を行い、本人や家族の意向を確認し、検討や見直しを行っている。変化に応じ、その都度、現状に即した計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別記録、特記事項の申し送りを行い、情報を共有し、計画の実施等チェックし、1ヶ月のケアプラン評価を含め、見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に応じ、医療機関への送迎や受診の支援を行っている。他職種(OT、PT、ST、栄養士等)からもアドバイスを頂いたり、ショートステイも受け入れたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	敬老会のボランティアや東区のコンサートに参加したり、消防訓練や人工呼吸法やAEDの使い方の勉強会も行っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じ、受診や送迎等で他事業所と連携を図っている。家族の希望で車椅子利用等も行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居時契約や、対象となる方が出た時には連携する必要があると思うが、現在は特に必要としている方がいない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	契約者は関係医療機関の月2回の往診を受け、その他はかかりつけ医に受診していただき定期薬の処方や健康に関する相談を行っている。週1回の訪問看護師による健康管理を行っており、365日24時間緊急時に備え対応できる体制となっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じ、医師や看護師に相談している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回訪問看護師による日常の健康管理を行い、相談に応じてくれる。必要に応じ、関係医療機関の看護師にも相談している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入、退院時に家族、病院関係者と情報交換、相談を密に行っている。入院中にも、訪問し経過や現状が把握できるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ホームにおける重度化や終末期の対応の指針については文書化され説明がなされている。本人、家族の思いを受け入れ、ホームでできることは、家族、主治医と話し合い方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態や変化に合わせ、家族と主治医に相談を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居前に見学、十分な話し合いを行い、入居時には使い慣れた家具を持ち込みなじみの空間を作っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人格の尊重、プライドを大切にしており、記録等の個人名はアルファベットで記入している。記録物はスタッフルームで厳重に管理している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個人個人の理解しやすい言葉かけを行い、自己決定を尊重し支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	毎日の決まり事はなく、1人ひとりのペースで生活している。利用者の身体機能や個々のペースに合わせて散歩や買い物等支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	近所の床屋に行くこともあれば、外出が困難な方は出張理・美容師に来ていただき、身だしなみを整えるようにしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	毎日、食事前の盛り付けや配膳、食後の食器拭き等できることは、一緒に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	その人に合わせ、食べやすいもの(食事形態含む)や好みのメニューを取り入れている。		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	動きや様子を見ながら、声掛けを行ったり、時間を見計らいトイレ誘導し、トイレでの排泄を心掛けている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	時間や曜日は決まっておらず、本人の希望に応じ無理な声掛けは行っていない。自分から希望されない方に対しては声掛けを行っている。今の所、夜間等の入浴希望はない。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	生活習慣を尊重し、その場の状況に応じた対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	買い物や外出等希望する時はできる限り迅速に対応し、行事等にも声掛けし参加していただいている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	お小遣い程度を持っており、希望時は一緒に買い物に出掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望時は勿論、行事としても外出を計画している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に数回、計画を立て家族と一緒に外出を実行している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話はないが、電話はいつでも使用できる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会し、過ごしていただける。ただし、中には家族より面会を制限されることもある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会で取り上げ、虐待の実態や禁止対象となる行為の理解、事例検討をグループ討議で行い、正しい理解につなげている。		基本的には拘束は行わないという考えの下、ケアを行っているが、定期的に勉強し、互いに自分たちのケアを振り返ることは継続して行きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	1階玄関は、夜間安全のため施錠しているが、日中は施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフ間で声を掛け合い、所在確認を行い、利用者の行動が見渡せるようにし、居室で過ごされている方に対しても定期的に見回りし、安全に配慮している。自室の小窓にカーテンをかける等プライバシーに配慮している。スタッフ間で話をする内容により、どこで話し合いを行うかも配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品を認識、統一し保管場所を決めて対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	見守り、声掛けを行い、1人ひとりにあったケアを行い、事故防止に努めている。緊急マニュアルがフロアにあり、いつでも確認できる。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署より応急手当や救急救命についても勉強している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害や避難のマニュアルがフロアの目の届くところに貼っており、訓練も行っている。周辺地域の方にも協力していただけるように運営推進会議でも働きかけている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族来訪時の近況報告の中で説明しており、受診や往診を始め、体調に変化がみられた時は必要に応じ電話にて連絡している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>日々の本人よりの訴えや表情、行動から発見に努め、その勤務帯において口頭及び記録に残す等共有化している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>その人に合わせ服薬しやすい形状を工夫したり、薬の変更時の申し送りを徹底し、把握に努めている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>オリゴ糖や野菜ジュースを提供したり、腹部マッサージを実施している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、全員には実施できていないが、声掛けし促したり、介助が必要な方には介助にて支援している。歯科クリニックの往診を受けている人もいる。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>本人の好みに応じて提供したり、キザミやトロミをつけるなど形態も本人に合わせて提供している。また、水分、食事量も把握し記録に残し、補食も行っている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアル、対策用キットが各フロアに常備されている。家族にも面会に来られた際は、手洗いうがい施行の協力をさせていただいている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎晩、まな板や食器洗い用スポンジ、台拭き等消毒している。食品は賞味期限以内 に使い切るようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周辺の清掃を行い、掲示板を活用して催しの案内や利用者の活動や作品を紹介をして近隣の方にも親しみのしやすい玄関周りになるように工夫している。玄関前にはベンチ(夏季)を設置し、散歩帰りに一休みしたり、日光浴が行える場所としても使用している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有スペースでは、季節を感じられる装飾や写真、生花を飾り、程よい音や光、家庭らしい匂いのする落ち着いて過ごせるように工夫している。</p>		<p>雑然としがちのため、特に配慮に努めている。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>各席は入居者本人たちによって、定まってしまっているが、フロアにはソファがあることで、思い思いに過ごせるようになっている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内は、安全に配慮しつつ、馴染みのものを用意していただいている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>トイレの臭い等には消臭スプレーを使用したり、芳香剤を設置したりしている。フロア内、居室内の温度・湿度を調整、換気を行っている。</p>		<p>温度は24 前後、湿度は50%を目標に対応しているが冬場は乾燥することが多い為 加湿器のほかバスタオルなどで調整を継続する必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)